宇佐市　安心院町

ようこそ佐田へ

AJIMU

佐田の名所

1 佐田京石

市指定文化財史跡

縄文から弥生期、今は失われた太古の信仰を示す遺跡。巨石群のほか、米神山の山頂付近には環状列石もあり、登山道沿いにはさまざまな巨石群が残っています。

2 イチイガシ

県指定天然記念物

根回り12.1m、幹囲は7.4m、高さ24mという巨木。樹齢およそ1千年と推定されています。

根元付近にうろ（空洞）が出来たため、うろの中に石の祠を入れたこともありましたが、樹勢さかんなイチイガシが石の祠を締め割ってしまい、現在、石の祠はうろの中から撤去されてます。

3 佐田神社

県指定有形文化財・佐田社の板碑　市指定有形文化財・佐田神社両部鳥居

佐田郷の総鎮守。交通の要衝として栄えた佐田の豊かさ、文化を凝縮した神社。

境内には、室町期の板碑や県内では珍しい両部鳥居などの文化財があります。

そのほか、豪奢な彫刻が施された本殿、ずらりと並ぶ寄進の石燈籠、乃木将軍を描いた絵馬などを見ることができます。

また、大砲鋳造のため賀来惟熊が築いた反射炉の遺構が、神楽殿周辺で確認されています。

4 大年社（おおとしじゃ）

県指定有形文化財・大年社板碑

彩色された本殿や、家畜安全を祈る仁王様、県の有形文化財である板碑２基が境内にあります。

鎌倉から室町にかけての戦乱の時代に平和を願って建てられた板碑は、且尾や佐田神社にも残っています。

大年神社の仁王様には、「大きい仁王様は、力比べの相手だった小さい仁王様を追いかけて中国からやって来た」という伝説もあります。

5 佐田城（青山城）址

青山城石垣跡

大規模な土塁と空堀を巡らせた堅固な山城の跡。佐田城（青山城）・赤井城ともに佐田氏の居城。

豊前豊後の境界に近く、大内・大友両氏が睨みあう最前線の城でした。

6 白山神社（はくさん）

市登録遺跡・白山神社遺跡

白山神社楼門

「磐座（いわくら）祭祀」という非常に古い信仰形態を示す巨石群と、鳥居、神殿、神楽殿、楼門、石階段が直線的に配置された珍しい神社。磐座祭祀から神殿祭祀への変遷を見ることが出来ます。

温泉　佐田温泉
☎0978-44-2180　安心院町佐田949-1
ナトリウム塩化物泉・炭酸水素塩泉。関節痛や五十肩などに

観光農園　北大観光由布見台農園
☎0978-44-1376　安心院町大見尾1437−41
ぶどう、ブルーベリー狩など

観光農園　前田観光園
☎0978-44-2240　安心院町古川416
ぶどう（約10品種）狩など

観光農園　あじむ風と大地の農園
☎090-7390-4381　安心院町大見尾
ぶどう（約7品種）狩など

農村民泊　百年乃家ときえだ
☎0978-44-0811　安心院町且尾206
お食事処としても利用可能（※要予約）

農村民泊　さや
☎0978-44-1083　安心院町廣谷405-1
かりんとう・ゆでもち等おやつ作り体験（1,000円）可能

農村民泊　北大観光サングレープの丘
☎0978-44-1376　安心院町大見尾1437−41
風光明媚な丘でぶどう狩りも可能

農村民泊　アグリの郷
☎0978-44-1757　安心院町古川654
各種体験が1,000円から可能。現在は、学生のみ受入

佐田の偉人

幕末三大本草学者　賀来飛霞（かくひか）

幕末三大本草学者の1人であり、医師。

薬草の採集を行い、さまざまな記録・資料を残しています。また、日本各地の産物や岩石・魚類・菌類など、様々な生物を写実的に描き、日本初の植物図鑑とも言われる「東京大学小石川植物園草木図説」を著しています。細密に書き遺された多くの資料は、現在の植物学の基礎を示したものとして高く評価されています。

民間での大砲鋳造　賀来惟熊（かくこれたけ）

耐火煉瓦塀

幕末、海防強化の緊急性を強く認識し民間ながら大砲を鋳造した実業家。

オランダからもたらされた簡単な図面をたよりに、藩からの資金援助も受けず当時最先端の兵器であった大砲を作っています。佐田神社の境内に作られた反射炉は、薩摩藩の反射炉より1年早く稼働を開始しています。鉄を溶かすための「反射炉」に用いた耐火煉瓦は、現在、佐田神社の塀にも使用されています。

夭折した天才彫刻家　岩男是命（いわおこれのぶ）

1937年、26歳で戦死した彫刻家。帝展に2回入選。日名子実三（日本サッカー協会の八咫烏をデザイン）がとった唯一の内弟子でした。

犬好きで、出征前に出品した「シェパード」は帝展で特選となりましたが、戦地で重傷を負い意識不明に陥った岩男の耳には、特選を知らせる戦友の叫びも届かず息を引き取りました。「シェパード」のレプリカは安心院文化会館前で見ることができます。

幕末の勤皇歌人　佐田秀（さだひずる）

佐田秀の墓

勤皇倒幕の志士、歌人。万葉集の4000首余りを暗誦し、万葉以来とも言われるますらをぶりの歌を詠みました。

慶応4年(1868)1月におこった御許山義挙の首師で、宇佐市四日市の陣屋などを襲撃。長州藩の誤解を受け29歳で長州兵の毒刃に倒れています。

隠棲していた轟では、仲間たちと計を巡らせながらも、秋月を愛で歌も詠んでいます。

問い合わせ先　佐田地区まちづくり協議会（0978-44-0312）宇佐市観光まちづくり課（0978-32-1111）宇佐市観光協会安心院支部（0978-34-4839）